

100年スーツのコンセプトは

親から子へ、子から孫へ 100年受け継がれるスーツ

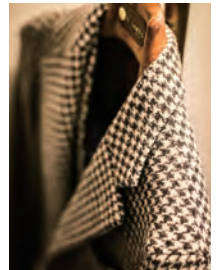
『100年スーツを作る理由』

イルサルトを創業してから9年12,000名以上の経営者の方とお話をしてきて最も感じるのは『想いの強さ』です。お客様の多くは『従業員50名以下』の中小企業の経営者さん、強い想いや志、自分がやるんだ!という使命感を持ち、お仕事をされています。こうした中小企業経営者の皆さまに、スーツを通して『会社の顔として相応しい経営者の見た目』を作り、ブランド力や影響力を高めてもらうのが私の仕事です。

日々お客様と接する中で私自身にも変化が生まれはじめました。経営者のこの熱い想いを次世代に継承し、『100年企業』になっていくお手伝いをイルサルトでもさせて頂いたらどんなに幸せだろうかと思いついたのです。『会社の顔』として企業を継承する方に『継承することの大切さや難しさ、覚悟』と言った想いが織り込まれた『特別の1着』を仕立てたい、そう感じたのです。一生物と言う言葉もありますが、イルサルトが目指すのは『三生物』のスーツ。会社経営者として子や孫へ継承する場合もあれば、信頼のおけるNO2に会社を託す場合、様々な『三生』があります。

『100年スーツで目指すもの』

『ツイード』と言う素材があります。真冬によくジャケットやコートで使われる分厚く保温性のある生地で、私も好きで冬になったら好んで着ています。このツイード生地はイギリスでは親から子へ、そして子から孫へ色々な部分を補修しながら大切に受け継がれていき、孫が着るくらいになる頃に丁度生地もこなれてきて『すごく良い塩梅』になってくると言われているものです。そうやって長い時間をかけパートナーとして一緒に作り上げていく、そんなことをイルサルトでも実現させたいのです。



『100年スーツを作るもう一つの理由』

ヨーロッパ出張に行くようになって7年ほどになるのですが、7年前と比べて一番違うのが“スーツをきちんと着ることの出来る人”が激減していると言うことです。着物をきちんと着ることの出来る日本人がどんどん減っているのと同じことが今ヨーロッパでも起きているのです。

これには様々なことが影響しています。常に黒いタートルのステーブジョブズさんが活躍されたことで、別にスーツでなくても構わないと言う流れになっていることがまず挙げられます。この流れを私は否定する気は全然ありません。カジュアルな装いであっても“自分が何者であるのか?”を相手に伝えることは十分に可能だからです。現にステーブジョブズさんの場合は、ご自身の装いがメディアになったばかりではなく、ミニマリズムの追求と言うアップルの商品コンセプトをジョブズさんの装いでも見事に表現していたからです。ただ私が違うなと感じるのが、こう言ったことを表面的にだけ捉え、どんどん服装だけがカジュアルになっていく所です。そこには何の思想も覚悟も感じないのです。

『イルサルトの使命』

ヨーロッパに行っていて、際立った存在感を感じさせているのが“きちんとスーツを纏った人”。カジュアル全盛の時代だからこそその存在が非常に目立っているのです。この時代だからこそ、スーツの本質を伝えクラシックなスーツを作りたい。そんな風を感じました。クラシックと言うのは古臭いと捉える方もいますがそうではなく、普遍的でどんな時代にも輝き続ける永続性のあるもの、私はそう解釈をしています。

表層的なトレンドを追いかけるのではなく本質を理解した上でお1人お1人に相応しい装いを作り上げる。やはりこの部分がイルサルトの役割であり、西洋で生まれたスーツを東洋で扱う者としての責任であり、自分に課せられた『使命』なのではと感じ新ブランドの立上げを決意しました。

『名前の由来』

この100年スーツのブランド名は『ilsarto classico di napoli』(以下classicoと略します)。イルサルト クラシコ ディ ナポリと読みます。クラシコとは、イタリア語で“最高水準の、高雅な、模範的な”などの意味を持ちます。



『ナポリ仕立てとは?』

また何故ナポリを入れたのかと言うと私が最も好きなのがこの『ナポリ仕立てスーツ』だからです。実は、私の大きなコンプレックス『なで肩』を解消してくれたのがナポリ仕立てのスーツでした。1998年に生まれて初めてスーツを仕立てた時にコンプレックスのなで肩が、『信じられないほどの美しいシルエット』になっていることに驚きました。何が起きたのか理解出来ず何故なのか?と聞くとナポリ仕立てのスーツは肩のシルエットが特徴的で『なで肩の方が似合う』と衝撃的な事実を職人さんは教えてくれたのです。

『100年スーツを仕立てる職人さん』

ただイタリアの物をそのまま持ってくると日本にはそぐわないことも沢山あります。そこでclassicoでは、ナポリ仕立てのスーツを『最も精度高く』再現出来る日本の工房と職人さんで日本人の体型に合う様、2年以上かけ調整を重ねようやく完成した『サイズ感やシルエット』にてお仕立てさせて頂きます。実はこの工房と職人さんは『私のコンプレックス』を1998年に払拭して下さいました『匠の技を持つ』方々。先日の出張でも出来たばかりの新ブランドスーツを着ていったのですが、『ナポリ人よりナポリ人らしい』と本場の方にも太鼓判を押して頂いたお品物に仕上がりました。